

一日でも早い復興を願う

埼玉県医師会長 金井 忠男

東日本大震災の犠牲者の皆様のご冥福をお祈りし、被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

日本国民誰もが、自分の支援出来る事は何かといち早く考え、行動に移し現在も続けている事と同時に、世界各国の心からの応援メッセージが届けられた事に感動しました。各国のメディアは被災した方々の節度ある行動を称え、日本は早い時期に必ず復興するであろう、日本人の勤勉さと忍耐力の強さが、それを可能にすることは、過去の復興の歴史からも想像できるし大いに期待するとともに、いろいろの立場で支援していこうとの報道がありました。そして、世界各国から多くの義援金が届いています。

国内では、多くのボランティアがいろいろの場で活動し、沢山の人が支援物資を送り、避難所では支援活動を近隣の方々が行っています。かつてない義援金が寄せられていますし、誰もが節電に協力しています。全ての国民が早い復興を願って協力しています。

被災者の皆様は、氷点下と言う寒さの中、暖房施設の無い環境で過ごしておられるにも拘らず、自衛官やボランティアの方々の支援に感謝を述べ、報道関係の質問にも丁寧に答えておられる姿を見ると、素晴らしい方々であると感じるとともに心が痛みます。ライフライン、インフラの整備が急がれてはおりますが、不自由な生活は暫く続くことが予想されておりますけれども、是非とも頑張ってくださいと思います。

避難所生活を余儀なくされている多くの方々のご苦労は、我々の想像以上のものと思います。プライバシーを守れない状況でのストレスは、大変大きいと思いますし、衛生面や感染症の心配もしなければならないでしょうし、そのほか多くの問題があるのかと思います。

さいたまスーパーアリーナには、二千人を超える人達が避難して来られました。さいたま市の四医師会会員の先生方の尽力により、医療は当然のこと、あの場所での最高の対応が出来たものと考えております。双葉町の方々は、四月から加須市に移転しましたが、広い居住スペースと静かな環境で落ち着かれると思います。双葉町以外のいわき市や南相馬市等の皆さんもスーパーアリーナから他の地域に移転されましたが、双葉町と同様に良好な環境が得られると考えております。

県内には、スーパーアリーナから移った十か所の避難所以外に多くの避難所があります。県は四月一日から県内に避難した人を対象とした「県避難者総合

相談センター」を、スーパーアリーナ内に開設しました。県医師会はこれをサポートする事を県に申し入れました。避難所の問題を考えると、医師会の支援が必要と思われることが大変多くあります。医療一般の他に専門的医療を必要とするもの、例えば、小児医療・ワクチン接種・学校保健、産婦人科医療、人工透析、精神科医療・メンタルヘルスケア、介護・リハ、感染症対策等の公衆衛生・環境などがあり、健康保険の取扱などもあります。しっかりとサポートしていきたいと考えております。

災害直後から、検案や医療支援のため現地に赴くと言われた医師会員の先生方が多くおられ、自己完結型を目指し自ら全ての準備を行い、看護師や運転手、事務要員等からなるチームを作り、既に何チームもの方々が活動をされて来られ、感謝されております。

避難所のサポートも医療支援も長期化する事は避けられません。医師会としてはずっとこれらを続けていきますので、会員の先生方には協力をお願い致します。